

## 被災後、メンタルケア研修を実施しました

被災した直後は、恐怖と不安のために混乱し、著しいパニックに陥る急性ストレス反応がみられます。被災後しばらくは避難所生活や物資の不足などによるストレスがひどく高まる反面、被災者間の連帯意識も生まれ、互いを大切に思い、結束して復興に向けて努力しようという前向きな気持ちが共有されます。しかしながら、災害から数週間も経つと、さすがにそれまでの疲労や緊張がつのり、将来への不安や無力感も強くなってきます。

当職員でも自宅が破損したり、夜間は余震による不安のため車中泊から自宅に戻ることができない職員も多くいました。地震から2か月近く経過しましたが、心のケアはこれからが正念場を迎える時期かもしれません。

当院では、5月23日24日ストレスチェックの説明会とメンタルケアの指導を行いました。5月26日は、地域医療機関と介護施設などの勉強会のにしくまカフェにて、臨床心理士の森川先生にお越しいただき、「災害時のメンタルヘルス」についてお話をいただきました。  
①相棒をつくる②限界を知る③ペースを守るの燃えつきを防ぐ3原則で、これから無理をせずに活動して参ります。

次回のにしくまカフェは6月20日（月）18時～当院の通所リハれんげ草内にて  
テーマは「震災の振り返り～つくろう地域力～」です。

参加希望の方は地域連携室までご連絡ください。（TEL 096-358-1118）



### 外来診療スケジュール

平成28年5月時点

診療科	時間帯	専門	月	火	水	木	金	土
整形外科	午前		林	林		入江	福田	
		山口浩司	山口浩司	手術				輪番
	午後	山口浩司			手術	井手尾	福田	
		ひざ専門 (予約制)			手術	林		
		関節・スポーツ (予約制)					山口浩司	
内科	午前	(予約制)	西村	篠原	篠原	篠原	篠原	
								西村
		一般	増田	山口勉	山口勉	増田	山口勉	
		吉田						輪番
	午後	神経内科				植田		
		循環器内科		藤末 (予約制)				伊藤(第1.3.5週) 宮崎(第2.4週)
		(予約制)	篠原	西村	西村			
	午後	一般		吉田	増田	山口勉	吉田	
泌尿器科	午前	(予約制)				米納		
	午後		米納・本多 (隔週)					
皮膚科	午前			山下				
	午後	(予約制)		山下		山下		
麻酔科	午前		柳下	柳下/辻			柳下	
	午後							
健診	午前		山口勉	増田	増田	山口勉	増田	
訪問診療	午前				吉田	吉田/ 西村(第1週)		
	午後	林(最終週)					西村(第1・3週)	
		吉田						

\*学会など診療スケジュールが急遽変更になる場合がございます  
詳細はホームページ又はお電話などでご確認下さい

内科	専門分野	篠原	一般内科/糖尿病・代謝
		西村	一般内科
		増田	一般内科/消化器
		山口勉	一般内科/消化器
		吉田	一般内科

熊本市南区富合町古閑 1012 Tel 096 (358) 1118



NISHI KUMAMOTO HOSPITAL  
にしくまもと病院

Vol.82 SUMMER

# にしきまだより

## 熊本地震 被災状況報告

この度の熊本地震の被害にあられた被災者の皆様にお見舞いを申し上げると共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます



4月15日のテレビニュース



棚など倒壊した病院内



休校中、当院中庭で遊ぶ職員の子ども達



NISHI KUMAMOTO HOSPITAL  
にしくまもと病院

## 病院長挨拶

この度の熊本地震、平成28年4月14日（木）21:26分震度7の前震、そして4月16日（土）1:25の震度7のまさかの本震。多くの方が被災され、まだ避難所での生活や、車中泊等の方も、おられることと思います。被災された皆様方に、心よりお見舞い申し上げます。

今回の地震では幸い、入院患者さん、ホスピタウンハウスの入居者や職員の負傷等はありませんでしたが、給水設備で貯水槽や地下給水の配管が壊れて、患者さんや入居者の皆様方に大変ご迷惑をおかけ致しました。

耐震診断等を専門的に行う㈱ジャスト様の「震災復旧のための震災建築物被災度区分判定・復旧技術者」による、建造物の調査を4月27日に行いました。昭和63年にできた南館は、平成3年の増築部分との境に一部亀裂が入りましたが、構造部材には著しい損傷は見られませんでした。平成12年と平成20年に増築した北館も構造部材には著しい損傷は見られず、平成24年にできた本館は、周辺地盤の沈下は見られるも、構造的問題はありませんでした。地震直後も職員（被災した職員も多数おりました）が協力して、3度の食事も6階までバケツリレー方式で運び上げ、外来診療を休診することもなく、地震のために延期していた、人工膝関節の手術も4月26日火曜日から無事再開できました。

震災による避難所が富合町に4か所あり4月17日から、医師や、看護師、リハスタッフやソーシャルワーカー等による避難所訪問を行い、避難生活の方から喜んでいただいております。

今年初めに、関節鏡3000例、人工関節300例を達成し、患者さんや地域の皆さんへの「感謝の集い」を、5月21日（土）にアスパル富合で開催予定しておりましたが、地震の為に延期することにいたしました。今年中に地震が終息して、「笑顔での集い」を行いたいと、心から願っております。

まだ頻回に起きる余震は、どこで起きるか、いつまで続くのか判断できず、気象庁の「これから2ヶ月は、震度6弱程度の強い余震の起こる可能性がありますので、十分注意して下さい」と言う発表を聞きながら、皆が不安の中で生活しています。しかし前震から1ヶ月が過ぎました、災害発生から1週間の急性期、2週から3週間の亜急性期の時期は過ぎて、長期戦の慢性期になります。

今回の地震で私たちは多くの事を体験しました、熊本は医療・介護が充実して、熊本モデルと言われ、医療連携では有名なので大丈夫だと思っていた、しかし大震災で情報の連絡体制、県と市、行政と医師会等の連携、病院内における情報の伝達や、指揮命令系統の明確化など、できたつもりの事が不十分であったことを思い知らされました。

震災以前の状況に戻す復旧ではなく、2025年以降の大変な時期にそなえて、以前より良い体制を創るという「創造的復興」に向かって、地域の皆さんや行政、医療・介護等が力を合わせて、「新たなまち創り」をスタートする大きなチャンスだと思います。「コミュニティをつくる事を考えながら、仮設住宅の建設やまちづくりをして行く事が大切です。そして依存的でない復興を目指してください」J M A Tで来られた石巻の先生、「これからは頑張りすぎずに頑張る時期です。」神戸の真星病院立田室長、などの言葉をかみしめながら、職員みんなが力を合わせてがんばりますので、ご協力、ご支援をお願い致します。



病院長 林 茂

## 事務長・医療戦略推進室室長 新任挨拶



事務長  
医療戦略推進室室長  
山川倫旦

本年3月より医療戦略推進室長、また4月より事務部長として赴任いたしました山川倫旦と申します。着任早々「平成28年熊本地震」が発生し対策に追われる日々となりました。この地震で甚大な被害を受けられた多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私は兵庫県出身で、阪神・淡路大震災も経験しましたが、今後にしづくもと病院はもとより、南区をはじめとした熊本県全体の復興の日々を皆さんと共に願い歩んで行こうと思っております。

今、医療機関は厳しい時代を迎え、先を見据えた確固とした対策が望まれています。その中で早くから「熊本ホスピタウン構想」として、生涯住み続けられるまちづくりを掲げ取り組んで来られた林院長の想いに接し、実現に向けて共に汗を流す覚悟で熊本へやって参りました。

折しも国や熊本市が進めるCCRC構想（生涯活躍のまち）は、団塊の世代が75才以上となる2025年問題を見据えた対策であり、この地域も例外ではありません。

地域の皆様方と共にこれから的新しいまちづくりに貢献することで、これから新たな時代に認められた医療機関として生き残っていくと考えております。そのためには大きな変革も必要ですが、地域の皆様方や職員と建設的な意見を交わしながら医療・介護・福祉の隙間を埋めつつ進んで行けたらと思っております。

それでは皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

## 写真で綴る熊本地震



◆4月14日前震と16日本震◆震度7クラスの地震が2回きました。地震対策の為、固定してあったほとんどの棚も、もろくも倒壊しました。



建物自体に大きな被害はありませんでしたが、給水タンクや医療機器等一部が破損・使用不可となりました。



◆階段を使用して給食運搬◆閉じ込め防止の為、全てのエレベーター使用を禁止しました。そのため3階から6階の入院患者への給食は、職員同志で給食室から運搬を行いました。ほか、階段が利用できない方の運搬も人海戦術で対応しました。  
※エレベーターの完全解除は5/9



◆各地から届いた救援物資◆今回の地震では、多くの方々より救援物資などの支援を頂きました。まだ多くの道路が通行止めで、渋滞や安全も確保されていない状況の中で運んでいただいたところもありました。この場をお借りしてお礼申上げます。



◆夜間に避難所として開放◆本震直後の4月18日月曜より外來を再開しました。当院は長時間の停電もなく、水も復旧しトイレも使用できたので、夜間は地域の皆様の避難所として解放しました。高齢者や小さいお子様をお連れの方など多くの利用がございました。  
※夜間開放は4/25朝迄



◆患者様や利用者の移動◆本震直後は水の供給に制限がかかり入院患者やホスピタウンハウスの入居者の皆様の移動を行いました。まずは皆様の安全を第一に考え、職員が協力して臨床薬理センターへの移動を行いました。



◆職員子息預かりを実施◆地震後はほとんどの学校が休校となり、余震も続く中、子供を残して安心して働きないと多くの声が多くあがり、急きょ臨時で職員子息の預かり保育を行いました。見守りも職員で行い、利用料も無料とし、述べ160名近くの子供達を預かりました。  
※預かりは5/7迄



◆建物検証を実施◆4月27日熊本地震による建物の損傷状況を確認するため㈱ジャスト様に調査を実施して頂きました。非構造部材などに一部損傷が生じているが軽微であり、鉄骨やコンクリートなど構造部材は問題なしと安全のお墨付きを頂きました。

## 地域包括ケア 当院の取組み ～PART5～



## 在宅医療・地域フォーラムIN富合

厚生労働省は団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）となる2025年（平成37年）を目指し、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的の下、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続ける事ができるよう地域の包括的な支援サービス提供体制「地域包括ケアシステム」の構築を推進します。

下益城郡医師会主催在宅医療連携拠点事業として2月20日アスパル富合にて「在宅医療・地域フォーラムIN熊本」を開催しました。当日は400名を超す来場者があり、在宅医療への関心の高さを感じる会となりました。

熊本市長の大西一史様にもご挨拶頂き、当病院長も病院の立場から「人生の最終段階に受けたい医療」について、講演させて頂きました。

## 避難所への訪問も行っております



熊本市南区の避難所の一つの雁回館などで、地震直後より院長やスタッフが訪問し、体調についての相談やリハビリ体操などを実施しております。



まだ余震が続き不安を感じる地域の皆様に向け、地域リハビリ広域支援センター等も通じて支援を継続して参ります。